ONKYO®

アンプ内蔵サブウーファー

SL-D1000

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切に保管してください。

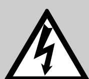
オーディオ機器の正しい使いかた

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

絵表示について
この「取扱説明書」および製品の表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

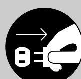
絵表示の例



△記号は注意(警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。



⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。



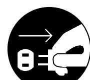


●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な指示内容(左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください)が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない





電源プラグをコンセントから抜いてください

●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない



分解禁止

●本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
●本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない



●本機を使用できるのは日本国内のみです。
●表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない



●本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
●本機を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。

■ 中に物を入れない

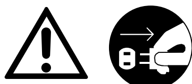


●本機の内部に金属類や燃えやすいものを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

SL-D1000(SN29344155A) 2 06.3.22, 2:33 PM
ブラック

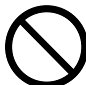
⚠警告

■ 中に水や異物が入ったら


電源プラグをコンセントから抜いてください

●万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 水の入った容器を置かない



●本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれて中に入った場合、火災・感電の原因となります。

■ 水のかかるところに置かない


水場での使用禁止

●風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。


水ぬれ禁止

●本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

■ 電源コードを傷つけたり、加工しない



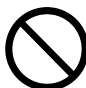
●電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがありますのでご注意ください。
●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

⚠注意

■ 設置上の注意



●ぐらついた台の上や傾いた所、厚手のじゅうたんの上など不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。
●移動させる場合は、アンプの電源スイッチを切り、ピンコードやスピーカーコードをはずしてから行ってください。落下や転倒など思わぬ事故の原因となることがあります。
●本機は非常に重いので持ち運びは、必ず2人以上で行ってください。けがや腰痛の原因となることがあります。
●移動させる場合は、サランネットやスピーカーユニットに手をかけないでください。故障やけがの原因となることがあります。

■ 次のような場所に置かない



●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災·感電の原因となることがあります。
●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について

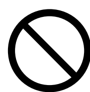


●本機を他のオーディオ機器やテレビなどの機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。

オーディオ機器の正しい使いかた

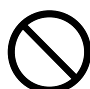
⚠注意

■ 使用上の注意

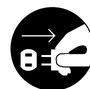


●電源を入れる前には音量調整ツマミを最小にしてください。過大入力でスピーカーを破損したり、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
●長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカー等が発熱し、火災の原因となることがあります。
●音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
●本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。
●キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。スピーカーの磁気の影響で使えなくなったり、データが消失することがあります。

■ 電源コード、電源プラグの注意



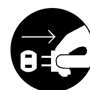
●電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
●ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
●電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。



電源プラグをコンセントから抜いてください

●旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
●移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

■ 点検について



電源プラグをコンセントから抜いてください

●お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。



●電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。

SL-D1000(SN29344155A) 4 06.3.22, 2:33 PM
ブラック

取り扱いについて

■ リアルウッド突板(つきいた)仕上げキャビネットについて

自然の木材を表面化粧板として使用したリアルウッド突板仕上げの製品は、工業製品とは異なり、一つとして同じ木目模様のものはありません。これは原材料の木の年輪が表面にあらわれているためで、不規則な模様の変化や、濃淡の変化といった個性を持っています。オンキヨーの製品は、自然が与えてくれる要素をできる限り生かしたいと考えています。このような個性も音楽を再現する道具の一部として味わってください。
また、本機の表面は塗装皮膜で被われています。合成皮革でできたソファーなど可塑剤を含む製品に長時間接触していると、色移りしたり本機の塗装が色落ちすることがあります。設置の際は、直接接触させないようにご注意ください。
塗装や仕上げの品質に関しては、当社が定める基準できびしく管理しております。

■ お手入れについて

本機の表面は時々柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときは、中性洗剤をうすめた液に、柔らかい布を浸し、固く絞って汚れをふき取ったあと乾いた布で仕上げをしてください。固い布や、シンナー、アルコールなど揮発性のものは、ご使用にならないでください。
化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

■ テレビやパソコンとの近接使用について

一般にテレビやパソコンに使用されているブラウン管は、地磁気の影響を受けるほどデリケートなものですので、スピーカーを近づけて使用すると、画面に色むらやひずみが発生することがあります。
本機は（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の技術基準に適合した防磁設計を施していますが、サブウーファーの一般的な使用状況からみて、ブラウン管の真横などに設置をしないことを前提に設計されております。そのため、ブラウン管の近くに設置することの多いセンタースピーカーに比べ、防磁レベルが低くなっています。
設置の際には、ブラウン管の真横に置かないでください。
その他の設置のしかたによって、色むらが生じる場合は、一度テレビの電源を切り、15分～30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能によって画面への影響が改善されます。その後も色むらが残る場合はスピーカーをテレビから離してください。また、近くに磁石など磁気を発生するものがあると本機との相互作用により、テレビに色むらが発生する場合がありますので設置にご注意ください。

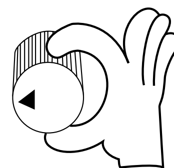
■ 設置上のご注意

- 本機のキャビネットは木工製品ですので、温度や湿度の極端に高いところや低いところは好ましくありません。直射日光の当たる所や冷暖房機具の近く、浴室や台所の近くなど、湿気の多いところは避けてください。
- 振動や傾斜のないしっかりとしたところに置いてください。
- レコードプレーヤーやCDプレーヤーのそばで本機を使用したとき、ハウリングや音飛び現象が起こることがあります。そのときはプレーヤーと本機の距離を離すか、本機の音量を下げてお使いください。

■ 使用上のご注意

アンプのトーンコントロールやグラフィックイコライザー等で低域を極端にブースト（増強）したり、低域が異常に強調された特殊なソースを再生した場合、本来の信号以外に異常な音が発生する場合があります。これはスピーカーユニットの限界を超え、忠実な再生ができなくなったときに発生する異常音で、故障ではありません。
しかし、このような状態でご使用になると、スピーカーユニット破損の原因となりますので音量を下げてご使用ください。

音のエチケット
楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、
ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。



SL-D1000(SN29344155A) 5 06.3.22, 2:33 PM
ブラック

主な特長

「AERO（エアロ） ACOUSTIC（アコースティック） DRIVE（ドライブ）」を採用

AERO ACOUSTIC DRIVEとは、「空気をいかに駆動するか」という着想で、重心が低くよりハイスピードな低音を実現させるオンキヨー独自の技術の総称です。
本機では、ダクトを細長いスリット形状にすることにより、空気の圧力を高めて、重心が低くスピード感あふれる超低音を再生します。また、この技術によりダクトからの風切り音などの音質に悪影響を及ぼす不要なノイズを極限まで低減させ、低域再生範囲の拡大もあわせて実現させています。

■リアルウッド突板仕上げキャビネット

自然の木材を表面化粧板として使用しています。

ウーファーユニット

■新開発A-OMF振動板

高剛性化されたA-OMF振動板を採用。厚みを増すとともに、センターキャップを一体化することで、剛性を飛躍的に向上しています。

■大口径ボイスコイル

熱容量が大きく耐入力性に優れたφ100mmのボイスコイルを採用。ボイスコイルの口径を大きくすることにより、振動板の分割振動を低減し、ピストンモーション領域を拡大しました。

■ダンパー

応答が速く、放射音の少ない形状を採用しています。

内蔵デジタルアンプ

■オンキヨー独自開発のデジタルアンプ技術、「VL Digital（デジタル）」を搭載

デジタルアンプにおける音質劣化の要因であるノイズによるパルス幅変換エラーの問題を解決した、全く新しい高精度パルス幅変調方式です。

■4種類のフィルターモード（SUBSONIC（サブソニック）/DIRECT（ダイレクト）/HIGH（ハイ） CUT（カット）/HIGH（ハイ） CUT（カット） & SUBSONIC（サブソニック））

「SUBSONIC」は、極超低域周波数をカットします。ご使用の環境によって周辺の振動が気になる場合にご使用ください。
「DIRECT」では、AVセンターのサブウーファープリアウトから出力される信号を忠実に再生し、小型スピーカーにもバランス良く対応します。
「HIGH CUT」はアンプにサブウーファープリアウトがないとき、アンプから出力される高域周波数をカットします。

■4段階のハイカットフィルター（50/80/100/120Hz）

■LINE（ライン） OUTPUT（アウトプット）端子装備でサブウーファーの増設が可能

■バナナプラグ式スピーカーレベル入出力端子装備

■12Vトリガー入出力端子装備で他機との電源連動が可能

■オートスタンバイ機能

■IEC規格3P ACインレット装備

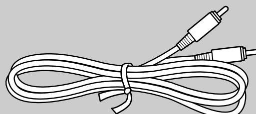
カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後にあるアルファベットは、製品の色を表す記号です。
色は異なっても操作方法は同じです。

付属品の使いかた

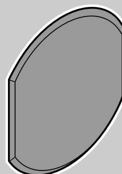
付属品

ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。
（　）内の数字は数量を表しています。

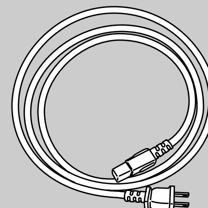
- ●接続用ピンコード　3m（1）



- ●サランネット（1）



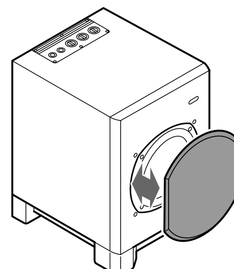
- ●電源コード　2m（1）

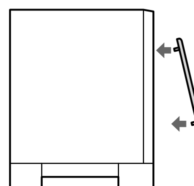


●取扱説明書（本書1）
●保証書（1）
●オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内（1）

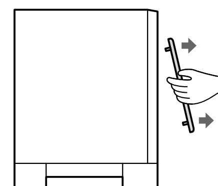
■付属のサランネットの取り付けかた

サランネットの上側にある取り付けピンを、本体のサランネット取り付けホルダーにあわせて押し込んでください。
同じように、下側の取り付けピンもホルダーにあわせて押し込んでください。
取り外すときは、サランネットを両手で持ち、下側から手前に引っ張り外します。





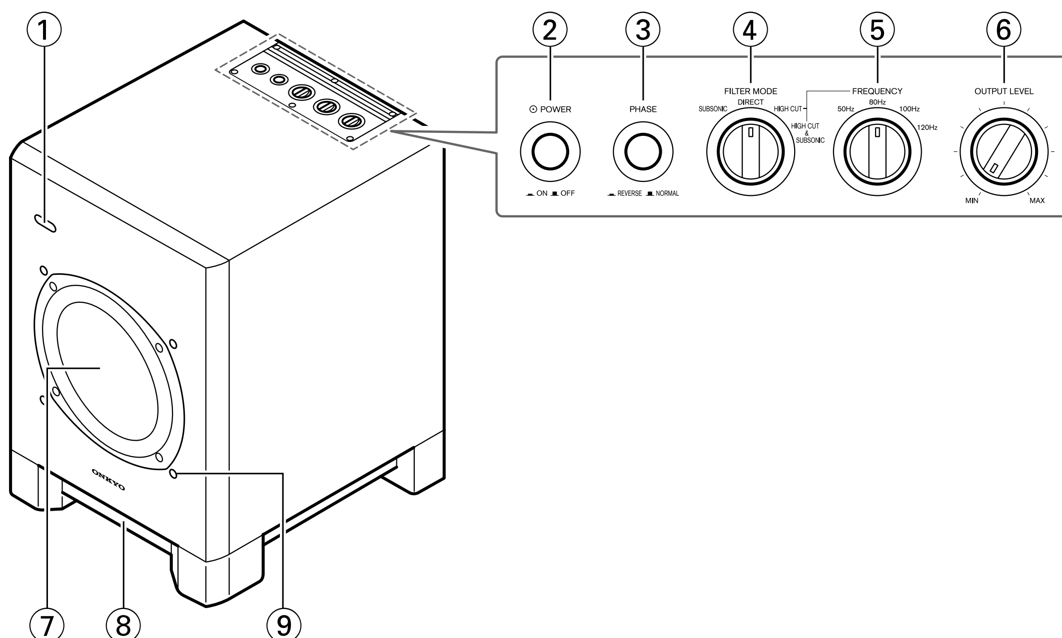
取り付け



取りはずし

各部の名前と働き

詳しい説明は、〔　〕内のページをご覧ください。



① **電源インジケーター（ON/STANDBY）**
電源が入っているとき、緑色に点灯します。スタンバイ中は赤色に点灯します。

② **電源スイッチ（POWER）〔12〕**
本機の電源をオン/オフします。

③ **位相切換スイッチ（PHASE）**
組み合わせるスピーカーとの位相の関係を切り換えるスイッチです。通常は、NORMALに設定しますが、組み合わせるスピーカーの低音特性や設置場所によっては、逆相の方が良い場合があります。ご視聴により、音が自然でつながりの良い方を選んでください。

- NORMAL：組み合わせるスピーカーと同位相のとき選びます。
- REVERSE：組み合わせるスピーカーと逆位相のとき選びます。

④ **フィルターモード切換ツマミ（FILTER MODE）〔14〕**
本機に内蔵しているフィルターモードを切り換えます。

- SUBSONIC：極超低域周波数をカットします。
- DIRECT：フィルターを通さずAVアンプなどのサブウーファー信号をそのまま忠実に再生します。
- HIGH CUT：高域周波数をカットします。
- HIGH CUT & SUBSONIC：極超低域周波数と高域周波数をカットします。

⑤ **高域カットオフ周波数調整ツマミ（FREQUENCY）〔14〕**
フィルターモード切換ツマミが「HIGH CUT」または「HIGH CUT & SUBSONIC」のときに、カットする高域周波数を50/80/100/120Hzの4段階に切り換えることができます。

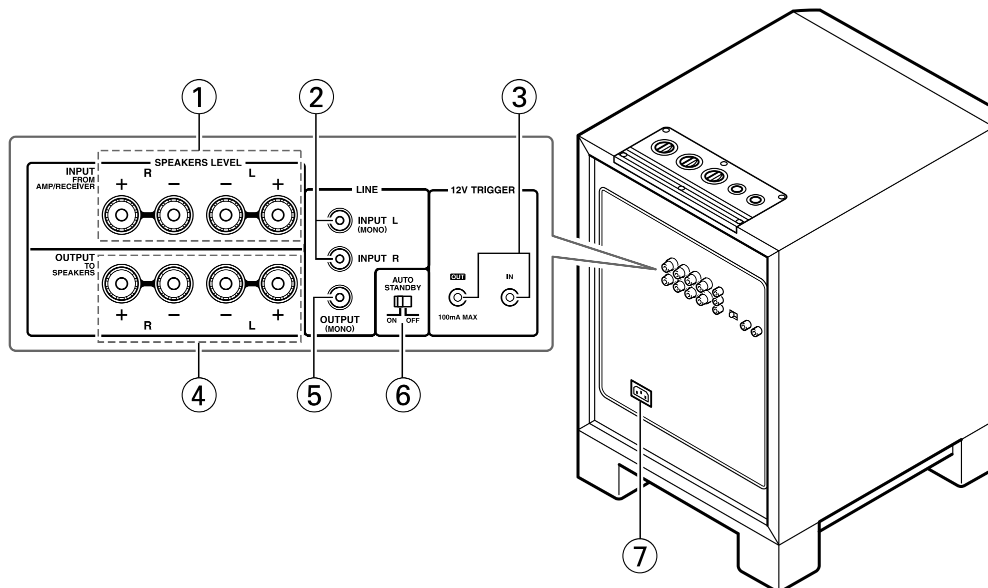
ご注意
フィルターモード切換ツマミが「DIRECT」または「SUBSONIC」のときは、効果がありません。

⑥ **音量調節ツマミ（OUTPUT LEVEL）〔14〕**
本機の音量を調節します。

⑦ **ウーファー**

⑧ **スリットダクト**

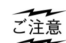
⑨ **サランネット取り付けホルダー〔7〕**



① スピーカーレベル入力端子
(SPEAKERS LEVEL INPUT FROM AMP/RECEIVER)
AVセンターやレシーバーにサブウーファープリアウト端子が無い場合、AVセンターまたはレシーバーのスピーカー端子と接続します。

② ライン入力端子
(INPUT L (MONO)/INPUT R)
AVセンターなどのサブウーファープリアウトを接続する端子です。

③ 12V トリガー入出力端子
（12V TRIGGER IN /OUT（100mA MAX））
本機と連動して電源を入/切させたい機器があるときは、本機の12V TRIGGER OUT端子とその機器の12V トリガー入力端子を接続してください。最大電流は100mAです。
また、本機の電源をAVセンターなどと連動させて入/切したいときは、本機の12V TRIGGER IN端子とAVセンターなどの12V トリガー出力端子を接続してください。



- 必ず電源の入っていないときに接続してください。
- 12V トリガーは、本機の電源スイッチ（POWER）がON（▬）のときのみ働きます。

④ スピーカーレベル出力端子
（SPEAKERS LEVEL OUTPUT TO SPEAKERS）
お手持ちの左右スピーカーと接続する端子です。
スピーカーレベル入力端子に入力された信号が出力されます。

⑤ ライン出力端子（OUTPUT (MONO)）
サブウーファーを増設するときに使用する端子です。増設するサブウーファーの入力端子と接続します。ライン入力端子に入力された信号が出力されます。

⑥ オートスタンバイ切換スイッチ（ON/OFF）
（AUTO STANDBY）
本機のオートスタンバイ機能をオン/オフします。
オートスタンバイ機能がオンのときは、信号が入力すると自動的に電源が入ります。



電源スイッチ（POWER）がOFF（▮）のときや、12V TRIGGER IN端子を接続しているときは、オートスタンバイ機能は働きません。

⑦ ACインレット（AC INLET）
付属の電源コードを接続します。

接続をする

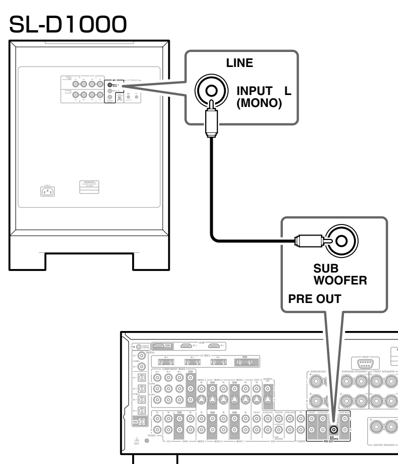
安全のため、すべての接続が終わるまで本機および他の機器の電源は切っておいてください。

最も一般的な接続

お手持ちの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

■レシーバーのSUBWOOFER PREOUT端子と接続する場合

サラウンド再生機能のついたAVセンターやレシーバーと組み合わせる場合は、必ずサブウーファー端子（SUBWOOFER PRE OUT）から、付属の接続用ピンコードで本機のLINE INPUT L（MONO）に接続してください。

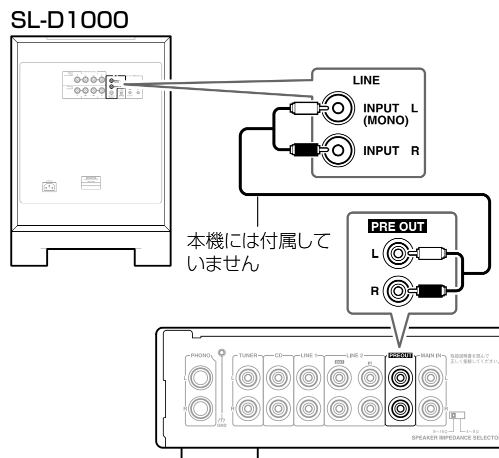


フィルター

この方法で接続する場合は、AVセンターなどの高域がカットされた信号を忠実に再生するため、本機のフィルターモード切換ツマミを「DIRECT」 または「SUBSONIC」でご使用になることをおすすめします。

■2チャンネルアンプなど2系統のプリアウト出力がある機器と接続する場合

市販のRCAオーディオ用ピンコードを使って本機のLINE INPUT L/R端子と接続してください。



フィルター

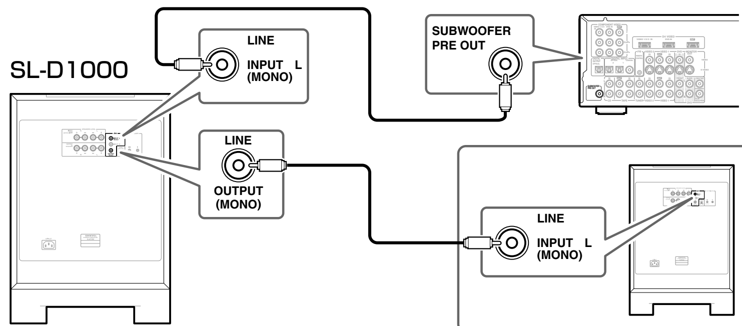
この方法で接続する場合は、アンプからの信号は高域がカットされていませんので、本機のフィルターモード切換ツマミを「HIGH CUT」または「HIGH CUT & SUBSONIC」でご使用になることをおすすめします。

本機をもう一台増設する場合

本機のLINE OUTPUT （MONO）端子と増設するサブウーファーの入力端子を接続してください。

ご注意

次ページの「スピーカー端子からの接続」をしたときは、この接続では増設できません。次ページのご注意をご覧ください。

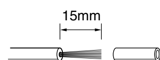


スピーカー端子からの接続　SUBWOOFER（サブウーファー） PRE（プリ） OUT（アウト）端子がないとき

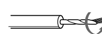
ご使用のアンプやレシーバーなどにサブウーファー端子やライン出力端子（PRE（プリ） OUT（アウト））が無い場合の接続方法です。

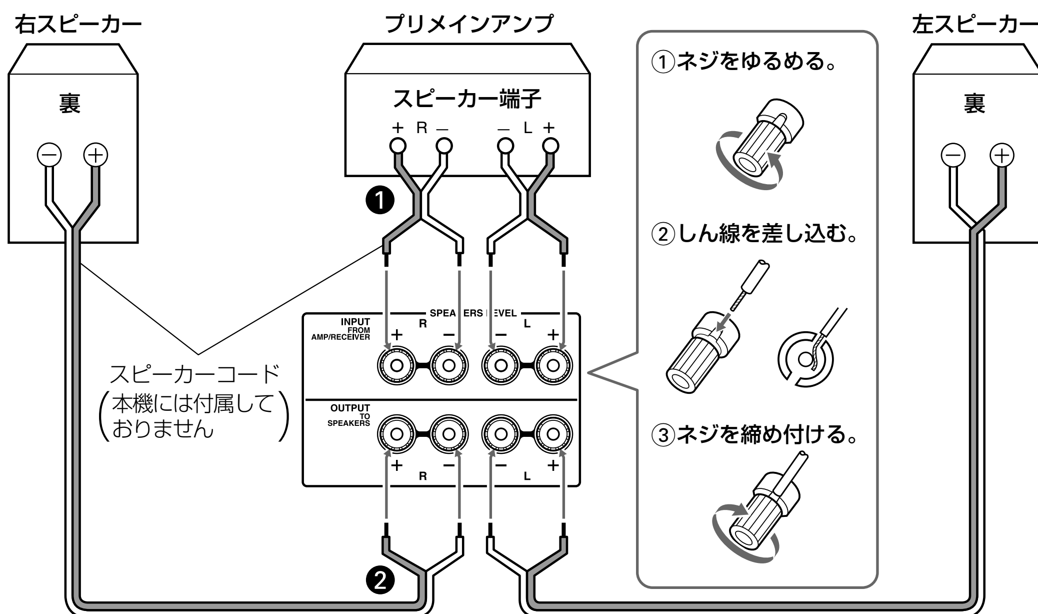
準備

スピーカーコードの被覆を15mmカットする



しん線の先端をしっかりとよじる



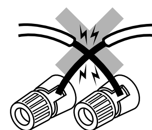


❶スピーカーコードを使用して、本機のスピーカーレベル入力端子とアンプのスピーカー端子を接続します。
❷お手持ちの左右のスピーカーは、本機のスピーカーレベル出力端子に接続します。

フィルター

この方法で接続する場合は、アンプからの信号は高域がカットされていませんので、本機のフィルターモード切換ツマミを「HIGH（ハイ） CUT（カット）」または「HIGH CUT & SUBSONIC（サブソニック）」でご使用になることをおすすめします。

ご注意



- スピーカーコードの＋/－、L（左）R（右）を間違えないように確実に接続してください。＋/－を間違えますと低音感が損なわれます。
- 本機のスピーカー出力端子にスピーカーを接続する場合は、本機のスピーカーレベル入力端子に接続するアンプに表示されているインピーダンスより低いインピーダンスのスピーカーをつなぐと故障の原因となります。
- スピーカーコードの接続は、しん線部が隣の端子や金属部に触れていないかよく確認してください。接触したまま動作させるとアンプの故障の原因となります。
- BTL接続のアンプはご使用にならないでください。アンプ、本機とも故障の原因となります。一般のアンプはBTLではありません。詳しくはご使用になるアンプの取扱説明書をご参照ください。
- サブウーファーを増設するときは、本機のスピーカーレベル出力端子と増設するサブウーファーのスピーカーレベル入力端子を接続してください。お手持ちの左右スピーカーは、増設したサブウーファーのスピーカーレベル出力端子に接続してください。

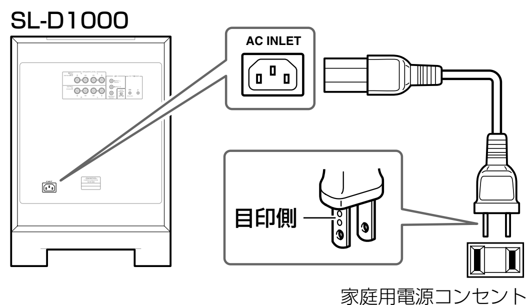
電源コードを接続する

■電源コードを接続する前に

すべての接続が完了していることを確認してください。
また、本機の電源スイッチ（POWER）が「OFF ▆」になっているか確認してください。
付属の電源コード以外は使用しないでください。この電源コードは本機専用です。
家庭用電源コンセントに電源プラグを差し込んだ状態でAC INLETから電源コードを抜くと、感電する可能性があります。
電源コードを接続するときは、最後に家庭用電源コンセントに接続し、抜くときは最初に家庭用電源コンセントから抜いてください。
本機の電源を入れると，瞬間的に大きな電流が流れてコンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。
コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめします。

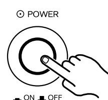
■より良い音で聞いていただくために

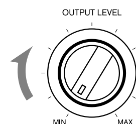
本機の電源コンセントは極性の管理がされています。電源プラグの目印側を家庭用電源コンセントの溝の長い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の長さが同じ場合はどちらを接続してもかまいません。



電源を入れる

本機の電源スイッチ（POWER）をON（▂）にして、音量調節ツマミ（OUTPUT LEVEL）で音量を調節してください。

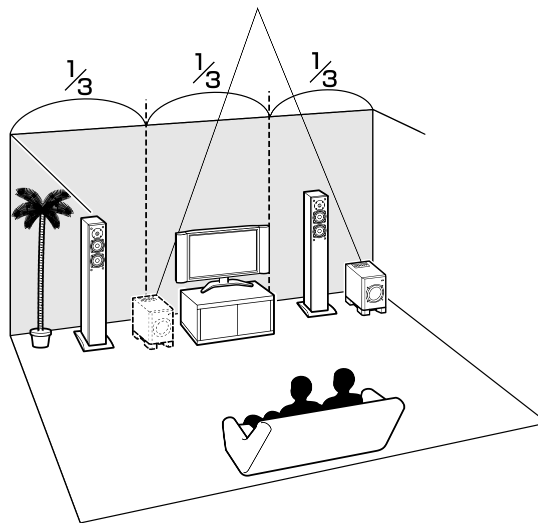




設置について

サブウーファーは設置場所と視聴位置によって効果が大きく異なります。設置場所は実際に音を聴いて決めていただくことをお勧めします。一般的には部屋の隅、または部屋の1/3の場所に設置するのが最も効果的です。
また、壁から離して設置するよりも、壁や隅に近づけた方が、音圧が高くなります。
右図は一般的な設置例です。

部屋の隅、または部屋の1/3の場所に置いたとき、良い結果がえられます。



試聴によるサブウーファーの設置方法：

一旦設置したい場所に本機を配置し、映画や音楽の質の良い低音がよく聞こえる部分をリピート再生しながら、本機を設置する壁伝いに歩いて試聴してみてください。低音のよく響く所とそうでない所がわかったら、低音の響くところに本機を設置してください。
視聴位置も同じ方法で決めることができます。視聴したい位置の周辺で低音のよく響く所を探してください。

サブウーファーの増設について：

サブウーファーが1台のときは、低音のよく響く所とそうでない所の差が極端に表れます。サブウーファーを2台設置すると、部屋の空気を駆動するポイントが2点になるので、その差を少なくすることができます。また、得られる最大音圧も2倍になりますので、サブウーファーを増設することは大変効果的です。

サブウーファーの特長と定在波について：

サブウーファーの超低域音は波長が長いので、人間の耳で音のする方向を判別することは難しいと言われています。従ってサブウーファーは視聴位置の正面に配置する必要はありません。

音は一定の速度で空気を伝わりますが、壁で囲まれた部屋の中では反射波が生まれ、入力波と干渉しあうことで、音のよく響く所とそうでない所がはっきり表れる現象が起きます。これを"定在波"といいます。一般的に視聴にもっとも影響を及ぼす定在波となるのは、部屋の縦横の長さを半波長とする周波数とその倍の周波数と言われています。半波長の周波数の場合、壁では音圧が最大(腹：音のよく響く所)となり、部屋の中央では音圧がゼロ（節：音のほとんど聴こえない所）となります。
部屋の縦横をそれぞれに4分割する線をイメージしてください。この碁盤の目の線にあたるところがそれらの周波数の定在波による"音のほとんど聴こえない所"となりますので、試聴位置はこの線上を避けるのが効果的です。また、さまざまな試聴実験により、サブウーファーの位置も定在波の節にあたる位置を避けたほうが良いことがわかっています。このため、部屋の隅または1/3の場所に設置することをおすすめします。

・部屋の大きさとそれを半波長とする周波数

六畳の長辺 ： 約45Hz
十畳の長辺 ： 約35Hz
二十畳の長辺 ： 約20Hz

調整のしかた

高域カットオフ周波数、音量の調整のしかた

お手持ちのスピーカーにサブウーファーを加えることで、低音域の再生帯域を広げることができます。
サブウーファーを設置する部屋の状況や組み合わせるスピーカーの種類に応じて、高域カットオフ周波数（本機のフィルターモード切換ツマミが「HIGH CUT（ハイ カット）」または、「HIGH CUT & SUBSONIC（サブソニック）」になっているときのみ）と音量の調整を行ってください。また、超低音は刺激が少ないためつい音量を上げすぎる可能性があります。少し控えめぐらいがちょうど良いバランスになります。（過大入力防止の点からもおすすめします。）

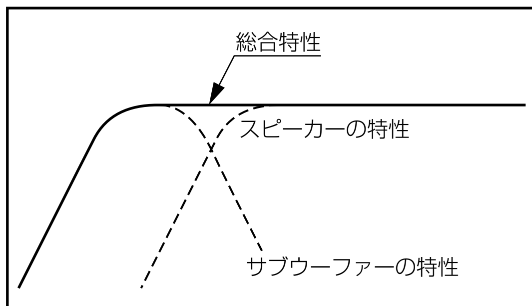


過大入力が入らないようにご注意ください。常識を越える過大入力に対しては故障の原因になりますのでご注意ください。また、接続するアンプによってはスイッチ類を切り換えるとき、ノイズを発生することがあります。このノイズはスピーカーを破損する原因にもなりますので、スイッチ類を操作するときは、ボリュームを一旦絞ってから切り換えるようにしてください。

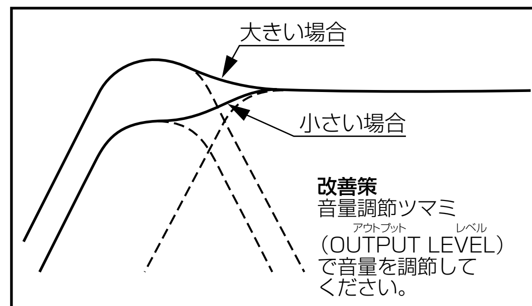
■サブウーファーの効果について

サブウーファーの再生帯域（高域カットオフ周波数の調整）や音量が適切でない場合は、下図のように総合特性に乱れを生じることがあります。

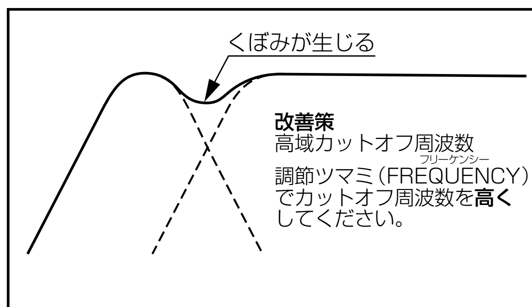
サブウーファーの再生帯域が適切な場合



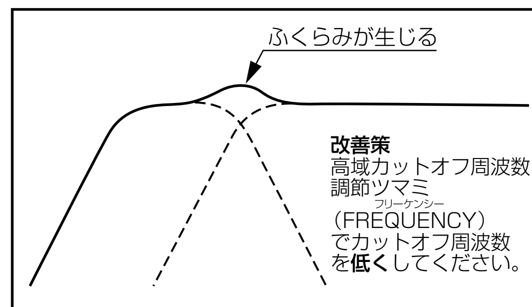
サブウーファーの音量が適切でない場合



サブウーファーの再生帯域がスピーカーの再生帯域と離れている場合



サブウーファーの再生帯域がスピーカーの再生帯域に近づいている場合



■ SUBSONIC（サブソニック）について

ご使用の環境によって、極超低域周波数による周辺の振動が気になる場合は、「SUBSONIC」または「HIGH CUT & SUBSONIC」に切り換えてください。

困ったときは

まず下の表で点検してみてください。接続した他機に原因がある場合もありますので、他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。

電源

電源が入らない

- 電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。

音声

低音が出力されない/小さい

- 接続用ピンコードのプラグが正しく奥まで差し込まれているか確認してください。
- 電源スイッチ（POWER）がON（オン）（▬）になっているか確認してください。
- 音量調節ツマミ（OUTPUT LEVEL）の位置を確認してください。
- スピーカーコードが正しく接続されているか確認してください。
- スピーカー設定が可能なAVアンプなどと接続している場合、AVアンプ側のスピーカー設定が「サブウーファー無し」に設定されていないか確認してください。
- 接続しているAVアンプの出力レベルを確認してください。
- 低音の入っているソースを再生してください。

ブーンというハム音が出る

- 接続用ピンコードのプラグが正しく奥まで差し込まれているか確認してください。
- 本機の近くにテレビなどの誘導雑音を発生する機器がないか確認してください。

主な仕様

形式	アンプ内蔵 バスレフ型
入力感度	スピーカー（L/R）入力：2.35V ライン（L/R）入力：125mV
入力インピーダンス	スピーカー入力：4.7kΩ ライン入力：12kΩ
実用最大出力	200W（2Ω・JEITA）
再生周波数範囲	HIGH CUT：20Hz〜120Hz DIRECT：20Hz〜2kHz
使用スピーカー	30cmコーン型
電源	AC 100V（50/60Hz）
消費電力	110W
外形寸法 **（幅×高さ×奥行）**	375×541×468mm （サランネット、ターミナル突起部含む）
キャビネット内容積	44.6リットル
質量	31.5kg
入力端子	ライン入力端子 バナナプラグ対応ネジ式 スピーカーレベル入力端子 12V Trigger入力端子
出力端子	ライン出力端子 バナナプラグ対応ネジ式 スピーカーレベル出力端子 12V Trigger出力端子
付属品	接続用ピンコード（3m）×1 電源コード（2m）×1 サランネット　×1 取扱説明書（本書）×1 保証書　×1 オンキヨーご相談窓口 ・修理窓口のご案内　×1
その他	防磁対応（JEITA） オートスタンバイ フィルターモード（SUBSONIC/DIRECT/HIGH CUT/HIGH CUT & SUBSONIC） ハイカットフィルター（50/80/100/120Hz） 位相切換スイッチ 突き板塗装仕上げキャビネット サランネット着脱可

※ 仕様および外観は性能向上のため予告なく変更することがあります。

修理について

■保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶ お名前
- ▶ お電話番号
- ▶ ご住所
- ▶ 製品名　SL-D1000
- ▶ できるだけ詳しい故障状況

■オンキヨー修理窓口について

詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　　年　　月　　日
ご購入店名： ______________________
Tel.　　(　　)
メモ：

ONKYO
オンキヨー株式会社
本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

ONKYO HOMEPAGE
http://www.jp.onkyo.com/

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：コールセンター
☎050-3161-9555　受付時間　9：30〜17：30
（土･日･祝日･弊社の定める休業日を除きます）

Printed in Japan
G0603-2

SN 29344155A

